

第5回（仮称）「漱石山房」記念館整備検討会議事 要旨

■ 日時 2012年12月16日（日） 9時30分至12時30分

■ 場所 榎町地域センター多目的ホール

■ 出席者

委員 中島座長、中川副座長、石崎委員、半田委員、山岸委員、牧村委員、伊藤（幸）委員、沖山委員、田中委員、夏山委員、貝田委員、志村委員、清水委員、桐生委員、伊藤（聡）委員、江田委員、小林(浩)委員、小林(智)委員、松林委員、三又委員、百足山委員、八重樫委員、吉川委員、川嶋委員

事務局等 加賀美地域文化部長、安河内榎町特別出張所長、吉川みどり公園課長、小俣総務部施設担当副参事、橋本文化観光課長、石塚文化資源係長、北見主任主事（学芸員）、小泉主任主事
株式会社丹青社

■ 欠席者 中村委員、江木委員

■ 内容

1 開会

中島座長より開会を宣言

2 前回のふりかえりと本日の予定

（中島座長）

- ・ 前回は、様々な条件を考えると、山房を独立して復元することは難しいので、大きな建物の内部に書斎を中心とした部分を復元するという一定の方向性を出した。
- ・ 本日は、それを踏まえて施設をどういう風に利用していくか、日頃のアイデアを具体的に出していく段階であり、グループディスカッションも行う。

3 事業展開の検討項目等について

（事務局）

（1）前回の質問に関する回答

- ・ 整備予定地は、東から西に傾斜があるが、整備する場合の基準面はどこになるのかというご質問に関して、公園の南側の道路（漱石山房通り）が、東側から西側に向かって上がっていくような形で坂道になっているが、漱石公園自体は平らな形で整備をされている。また、現在の区営住宅の敷地も、多少高低差があるが、ほぼ公園と同じ面になっている。従って、公園と一体的な整備ということと考えるとほぼ公園と同じ面を基準面として考えている。

（2）事業展開の検討に当たっての補足説明

- ・施設の規模や、区の財政上の一定の制約があるため、1つの事業を大きくすれば、ほかの部分は小さくするなど、選択と集中が必要になってくる。
- ・本日各事業について議論していただいた内容は、集約したかたちで基本計画案に掲載される。詳しい事業のご提案等もいただければと思うが、すべてをこの整備計画案に、活字として盛り込むのは難しい。基本計画案とは別に「検討の経過の報告書」も作成するので、そちらに盛り込みたい。

(3) 事業展開の検討項目について

資料「事業活動に関わる検討課題」に基づき、基本理念から想定される事業活動及びグループ討議のためのテーマ設定について説明した。

| 基本理念 | | 展開する事業活動 |
|------------------------------|---|---|
| ①「漱石山房」という土地の記憶を継承する場 | → | A. 「漱石山房」の復元展示 |
| ②漱石や「漱石山房」に関する情報発信の拠点 | → | B. 漱石の魅力や記念館の活動成果等に関する情報の発信 |
| ③漱石や木曜会に集った弟子たちに関する情報収集・研究拠点 | → | C. 資料の収集と保管 D. 調査・研究 |
| ④漱石を読み、学び、味わう場 | → | E. 展示（常設展示、企画展示） F. 教育普及事業（講座、講演会、朗読会、実演等） |
| ⑤多様な人々が集う文化観光の拠点 | → | G. 新宿のまち歩きに関わる情報の発信 H. 来街者や愛好者の交流の促進 |
| ⑥地域の歴史や文化の継承・発信の拠点 | → | I. 牛込・戸塚地区の歴史文化の紹介 |
| ⑦地域の憩いの場 | → | J. 利用者サービス（休憩機能） K. 地域の緑地、憩いの場としての庭の整備 |
| ⑧様々な世代が集い、交流する施設 | → | L. 多様な世代の参画、区民等による活動支援 |

■グループ討議に関わるテーマ設定

| | |
|------|--|
| テーマ1 | 展示 [A・E・(B)] |
| 議 題 | ①「漱石山房」の復元展示 ②常設展示のテーマ ③企画展示のテーマ |
| テーマ2 | 教育普及、利用者サービス [F・J・K] |

| | |
|-----|---|
| 議 題 | ①利用者像・・・どんな人が利用するのか ②教育普及事業・・・どんな事業を、どんな体制で行うか ③利用者サービス |
|-----|---|

| | |
|------|---|
| テーマ3 | 資料収集、調査研究、情報提供・図書閲覧 [B・C・D] |
| 議 題 | ①収集する資料・・・一次(実物)資料、図書資料、その他 ②調査研究・・・どんなテーマで、どんな体制で行うか ③情報提供、図書閲覧・・・どんな情報を、どんな手法で提供するか |

| | |
|------|---|
| テーマ4 | 地域との連携 [G・H・I・L] |
| 議 題 | ①まち歩き・・・テーマ、しかけ ②区民等による活動支援 ③区内施設との連携 |

(4) 類例の記念館の事例紹介について

資料「類例の記念館の概要」に基づき、23区内で最も多様な活動を行っている文学館として世田谷文学館の事例等を紹介した。

(5) 新宿区の所有する夏目漱石関連資料について

資料「新宿区が所有する夏目漱石及び木曜会に集った弟子たちに関する一次資料(実物資料)」に基づき、新宿区が所有する自筆資料、木曜会に集った弟子たちの関係資料等について紹介した。

4 グループ討議の進め方について

グループ討議のファシリテーター(事務局)より、グループ討議の進め方について以下のとおり説明した。

- ・各テーブルに、テーマ1から4まで、討議するテーマが振り分けられている。
- ・各委員は約15分毎にテーブルを移動し、すべてのテーマについて討議する。
- ・各テーブルのサブファシリテーター(事務局)は、進行とグルーピングの補助、討議内容の発表を行う。
- ・各テーブルの学識経験者の委員は、専門の領域でコメントやアドバイスをを行う。
- ・各テーブルで、事業展開についての意見・アイデアを3分間で5枚の付せんに記入する。その後、各自記入したことについて発表しながら、項目ごとにグルーピングし、模造紙に貼っていく。
- ・予め寄せられた意見を掲載した用紙が各テーブルに配られ、そのテーブルのテーマに該当する意見にマーキングされているので参考にしていきたい。
- ・ほかの人の意見をよく聞いて、できるだけそれに反応していただきたい。前向きな意見を願いたい。時間を独占せず、できるだけコンパクトに、シンプルに意見を述べていただきたい。
- ・記録のためICレコーダーを、各テーブルに置かせていただきたい。

5 グループ討議（各テーブル約 15 分× 4 回）

（休憩）

6 討議内容の発表（主な内容）

（1）テーブル 1：テーマ「展示」

①「漱石山房」の復元展示

- ・山房の復元はできるだけ正確に、精密な復元をしたい。庭の植栽についても展示できないか。
- ・再現する書斎の内部に座れるかどうかということについて、正確に再現するためには立ち入れないほうがいいが、やはり時間を区切ってでも書斎に座り、実際に漱石の気持ちになってみるのも大切ではないか。

②常設展示のテーマ

- ・紙物ベースだけではなくて、できるだけ立体的な展示もあったほうが良い
- ・漱石の人物像、生涯、作品紹介のほか、書簡や木曜会、家族のコーナー、食事、漱石の病歴などのテーマ、あるいは、作品の名シーンや脳の展示や骨格・声の再現が考えられる。
- ・海外の漱石の研究状況の報告

③企画展示のテーマ

- ・年 3、4 回以上の企画展示（資料を借用することも想定）
- ・映画作品などの期間限定の上映会。
- ・文京区と連携し、鷗外と漱石をテーマとした展示を行う。

④その他

- ・子どもたちに見やすい展示や、外国人に対する配慮が必要。
- ・コスプレコーナー（当時の衣装を着られるコーナー）や読書の部屋等を作る。
- ・寄贈を受け資料の充実を図るため、所有者が、「ここに寄贈したい」、「ここなら置いておきたい」と、安心して預けられるような質の高い展示室と収蔵庫が必要である。

（2）テーブル 2：テーマ「教育普及、利用者サービス」

①利用者像

- ・漱石ファンや文学ファン、子ども、高齢者、障がい者等、幅広い利用者像を想定する。
- ・あえて常設展示はターゲットをしばり、企画展は文学に興味がない方々まで引きつける展示とするという意見もある。
- ・主婦をターゲットとする。主婦を呼び込めれば、子どもや友人等が集まる。

②教育、普及

- ・講座、映画上映会、講演、実演（漱石の聞いた落語等）、公演、朗読会や読み聞かせの実施
- ・地域の小中学校へのアウトリーチ活動
- ・新宿区内の小中学校の児童・生徒のカリキュラムに組み込み、必ず一度は訪れるようにする
- ・作文コンクール、漱石文学賞、漱石サミットの創設
- ・漱石が愛した動物たち（猫、愛犬ヘクトー、文鳥）のキャラクター開発

③利用者サービス

- ・有名レストランをトップダウンで誘致すべき。美術館等で有名レストランを誘致した例がある。
- ・来場者の憩いの場となるカフェの併設とそこで提供する漱石に関連する菓子等メニューの開発
- ・漱石の愛用品のレプリカの販売など漱石グッズの開発、販売

④その他

- ・あえて喫煙コーナーを設けるべきという発想もある。
- ・飲食は館の中で完結させることや、ごみのポイ捨て防止の工夫などが必要。
- ・ホームページの充実と分かりやすさが大切、また、子ども向けのページも作成する。
- ・オープン時の講演会で著名な作家を呼び、そこから一気に世の中に知名度を獲得する。

発表後の質問・意見等

・あえて分煙し、「喫煙者の方も、ぜひ来てください」という姿勢を見せる。路上喫煙を防止し、地域の方にとっても気持ちの良い施設にしたいと考え、喫煙室を提案した。

(3) テーブル3：テーマ「資料収集、調査研究、情報提供、図書閲覧」

①収集する資料

- ・できるだけたくさんの資料収集をしてほしい。
- ・初版本、朝日新聞など当時のメディアの資料、各国語に翻訳されたものや外国の書籍の収集。
- ・個人で収集が難しい資料、漱石ファンにも納得がいく細かな情報を収集する。
- ・「漱石と木曜会に集った弟子たち」や「漱石を巡る女性たち」というテーマで収集する。
- ・改めて全国や学校、図書館、古本屋にも呼びかける。

②調査研究

- ・現代に流れる漱石文化の命脈や、社会や現代の作家への影響、漱石の世界観、鏡子夫人や木曜会、ある特定の年代を切り取ったテーマで研究する。
- ・専門の学芸員を置くほかボランティア、アルバイトなども確保する。
- ・木曜会のような勉強会や連続講座の実施。
- ・研究の助成制度の創設

③情報提供・図書閲覧

- ・漱石の全著作や関連書籍がすべて閲覧でき、資料情報も得られる充実したレファレンス機能。
- ・最新のICT技術等を使った情報提供を進める。
- ・オリジナル原稿の電子ブックを作って提供していくというような、マルチメディアの導入

④その他

- ・神奈川県立近代文学館や日本近代文学館と連携をしていく。
- ・基金を準備する

発表後の質問・意見等

・整備予定地は、一般的に交通のアクセスが悪いと言われているため、東京メトロや都バス等に広告を出す。また、この記念館へのアクセス図を各所に置いて、迷わないようにしたほうがいい。

(4) テーブル4：テーマ「地域との連携」

①まち歩き

- ・ガイドボランティアと、まち歩きガイドのコラボレーションの体制を整えていくべき。
- ・「漱石山房」記念館で漱石の人となりを理解してもらった上で、想像しながら歩けるような「なりきり散歩コース」や明治以降のほかの文学者のコースもあるといい。
- ・地下鉄やバス等公共交通機関との連携で、より広域にまち歩きの範囲を広げていく。
- ・アクセスしづらいため、看板や道を整備する。例えばガス灯や、イチョウ並木を整備し、散歩して楽しくなる導線整備をまちづくりの中でしていく。
- ・サインについては、スマホや最新のアプリにも対応していく必要がある
- ・まち歩きの地図に地元の商店街の広告を載せることで、地元の人への還元や連携もできる。

②区民等による活動支援

- ・既存のNPOや団体とも連携をとりながらやっていく。また、企業や図書組合、古本屋などと連携をとることで地域の活性化につながる。
- ・地域商店街のポイントカードへの参加や、核となる「漱石まつり」の開催
- ・地域のプライベートや子どもの安全についても配慮し、歩道の整備等もしていく必要がある。

③区内施設との連携

- ・早稲田大学との連携も当然やっていきたい。
- ・地域の子の憩いの場や子どもが気楽に利用できるような開かれた空間

④その他

- ・全国の関連施設やロンドンの漱石記念館との連携。

発表後の質問・意見等

- ・漱石は参禅したことがあるので、お寺の協力により、座禅会をしたら面白いと思う
- ・前回、漱石山房をソリッドな施設の中に展示として収めるということと同時に、その施設は開放的で、外に開かれる必要があるという方向性を出した。地域との連携を考える上で、公園の緑化の整備を進め、施設の利用者と周辺の住民がその緑地を共有するという点と、もう一つは住環境に配慮して、施設の側から周辺への視線を切るための施設設計が必要となるという点がある。そういう面で、記念館と漱石公園との一帯的な整備が、地域との連携を考える上で重要になると考えている。
- ・ミュージアムショップのグッズについては、若い世代や広く一般の方々にもアピールできるようなものを作っていきたい。

7 講評（学識経験者のコメント）

- ・漱石の学術的な資料をきちんと蓄積、保存していくこと。それから、発信し地域に愛されるかたちで活用していくことが記念館の基本となる。その2つは、ともすれば相対する要素もあり、バランスを取っていくと面白くないものになっていく可能性もある。しかし、両方重要なことなので、きちんと対応した上で、新しい注目されるものが出来たら良い。

建築物がそこに建つということは、非常に大きな訴える力を持つ。「漱石山房」が持っている力は、一般の人にも訴える力を持っているので、それが雰囲気としてにじみ出るようなものであってほしいと思っている。本日は、大変積極的なご意見を聞かせていただいたので、これを活用していく方向で協力したい。

- ・森鷗外記念館について気になったことは、地域との連携があまりないのではないかとということ。検討段階においても、このように皆さんが参加されて検討会が進んでいく、そういうことが一番大切な

のかなと思う。漱石が記念館のベースにあるが、それを抜きにして、地域の方々のための施設というか、訪れるだけで幸せになるような、感動が得られるような、そんな施設ができたらと思っている。

- 本日は非常に多角的な観点から意見をいただいた。今後、分類しまとめていく作業が必要になる。漱石山房というのは三方が回廊になっていて、硝子戸を閉めている山房と開け放している山房の二つの姿を持っている。季節によって、その開閉を一種の儀式として執り行うこともできる。

また、ホールなどで「硝子戸の中」の朗読会を開くなど、漱石が残した文学作品、あるいは言葉と、今回の事業展開についての提案をうまくつなぎ合わせる工夫をやっていかなければいけない。

- 1点は、世界の中の漱石、アジアの中の漱石。これを展示やさらに記念館の目玉にしてもいいのではないかと考えている。漱石は作品そのものも素晴らしいが、何よりもあの時代と格闘したところが今読んでも面白い大きな要因。近代化、西洋化で圧迫されたアジアの人々が、アイデンティティーをどうやって見つけるか悩んだ。その最初の人々が漱石だと言われ、中国の魯迅などは非常に影響を受けている。これは、普遍的なテーマであると思う。今、中国や韓国で若い研究者が育っている。韓国に行くと『坊っちゃん』のハングル語の翻訳が7、8種類ある。中国に行っても、大きな図書館に行くと漱石の作品がいくつもある。

皆さんが海外に出張なり旅行に行かれたときに、漱石の翻訳本、例えば、ドバイに行ったらアラビア語の、ベルリンに行ってドイツ語の、それをぜひ買ってきていただきたい。そうすると、かなりの海外コレクションになり、それが1つのコーナーになって、世界の中の漱石を目玉として発信できればと思う。また、そのためには、英語で読むだけではなく、発信できる学芸員が必要ではないか。それが私の夢であり、実現してほしいと思う。

もう1点は、設計に関する事。われわれは「漱石山房」というと『硝子戸の中』という小説を思い出す。あの小説における「漱石山房」は、硝子戸があってそこに日が差し、外に雑草が生い茂っているのが見えるという非常に開放的な空間。今回「漱石山房」の復元を大きな記念館の中に入れると、閉鎖的な暗い「漱石山房」になる可能性があるが、それは避けたい。覆い屋が必要だとしても、外の空気感と日差しを取り入れ、われわれの「硝子戸の中」のイメージを損なわないかたちで、スカスカでもいいから開放的なものを作りたい。その「開放的」というのは、地域の人たちが、下駄履きで来られるような、そういうシンボリックな開放感でもある。

- こういう検討会というのは、学識者や専門家が集まって進められるケースが多いが、今日はそういう場では出ないご意見を聞いて、大変勉強になった。

その中で思ったのは、やはり作って終わりではなくて、そこをスタートとして、どういうふうはこの施設を育てていくのかというロードマップが非常に大事だということ。今回のメンバーで運営にも携われるようなNPO等を作ったほうが楽ではないかと思ったりもした。やはり設置者側の「作って育てる」ということに対する一種の覚悟が必要だと実感した。

立地する現場や関連施設も見た中で、やはり地域住民密着型の施設での日常がないと、なかなか成り立っていかない施設ではないか。それには、運営にも意見が言えて、活動にも参画できる地域の学校とのコミュニケーションも大事だろうと思う。出たご意見の中でポイントだと思うのは、早稲田大学との博学連携を運営のベースの中に取り組み、さまざまな活動に生かすこと。もう一つは、住民の方や漱石のコアなファンの方などの役割を、施設を育てるロードマップの中にきちんと位置付けて、全体の運営組織を作ること。それが10年、20年かけて日本全国の子規博など博と博の連携となり、また、グローバルな展開の中では、海外とのチャンネルもきちんと育てていけることにつながる。

今日出たご意見をスタートのときにすべて整備するのは難しいが、いいご意見であれば、それは中長期の展望の中での目標として、一つ一つ、「5年計画でやってみよう」とか、「3年計画でやってみよう」ということを運営のテーブルに乗せていけるような施設として育ててもらいたい。そうなるために何かお手伝いできることがあればしていきたいと思う。

8 本日のまとめと次回の告知

(中島座長) 次回は、本日の事業展開に関する討議を集約して何らかの形でまとめ、さらにどのような施設に、どういう諸室を作っていくのかを検討する段階になる。そのための原案やたたき台となるものを事務局から出してもらい、次回はそれを元に検討していく。

(事務局)

- ・第6回検討会は、1月19日(土)午前9時30分から、会場は新宿歴史博物館を予定している。
- ・第8回検討会は、3月10日(日)午前9時30分から、会場は榎町地域センターを予定している。